

## 名古屋大学学生におけるUPI調査結果(第1報)

A study on mental health of students in Nagoya University from results of UPI

林 公子\* 梶田 美和子\*\* 大沢 功\*\*\*  
高橋 俊彦\*\*\* 佐藤 祐造\*\*\*

Kimiko HAYASHI \* , Miwako KAJITA \*\* , Isao OHSAWA \*\*\*  
Toshihiko TAKAHASHI \*\*\* , Yuzo SATO \*\*\*

We examined states of mental health conditions by UPI (University Personality Inventory) among 2,131 students in Nagoya University in 1995. The UPI has a checklist composed of 60 items regarding to the physical and mental conditons.

The results may be summarized as follows.

- 1) Students in Nagoya University were in better conditions of mental health as compared with the existing results of other universities.
- 2) UPI score and liescale score seemed to relate reversely.
- 3) Numbers of students with high UPI score (above 30 points), who are thought to have possible problems in mental health, were 70 (3.3%)

### はじめに

名古屋大学では、新入学生に対する定期健康診断において学生の身体の健康とともに精神の健康を調査する方法として、UPI調査(University Personality Inventory)を実施している。この調査は精神状態についての質問を中心とした56項目と調査の妥当性の指標とするために作られた4項目の計60項目からなり、診断の臨床的妥当性はかなり高いことが実証されている<sup>1)</sup>。今回、1995年度入学生を対象として行なわれたUPI調査結果について名古屋大学学生の精神健康状態の実態を把握し問題点を検討する手がかりを得る目的で分析を試みた。

### 1. 対象

1995年度入学者2259名を対象に入学手続き時に配布され4月に行なわれた定期健康診断時に提出されたUPI調査用紙を用いた。未提出者、記入もれのある学生を除き2131名(男子1600名、女子531名)を分析の対象とした。(回答率は全学生の約94%)男女別、学部別の回答者数と回答率を表1に示した。

### 2. 方法

UPIは、多数の被験者を対象にして簡便、迅速に行なうことが出来、しかも数値化の容易な

\* 愛知県立看護大学

\*\* 愛知医科大学

\*\*\*名古屋大学総合保健体育科学センター

\* Aichi Prefectural College of Nursing & Health

\*\* Aichi Medical University

\*\*\* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

表1 入学者数とUPI回答者数

学部	男子学生				女子学生				全体			
	入学者(人)	回答者(人)	回答率(%)		入学者(人)	回答者(人)	回答率(%)		入学者(人)	回答者(人)	回答率(%)	
文学	72	70	97.2	80	78	97.5	152	148	97.4			
教育学	12	12	100	55	53	96.4	76	75	97.0			
法学	110	94	85.5	80	71	88.8	190	165	86.8			
経済	174	153	87.9	73	69	94.5	247	222	89.9			
情報文化	79	68	86.1	25	21	84.0	104	89	85.6			
理学	234	217	92.7	50	48	96.0	284	265	93.3			
医学	78	71	91.0	23	23	100	101	94	93.1			
工学	835	812	97.2	79	78	98.7	914	890	97.4			
農学	109	103	94.5	91	90	98.9	200	193	96.5			
全体	1703	1600	92.5	556	531	95.5	2259	2131	94.3			

60項目から成るチェックリストであり、多くの大学で精神衛生のスクリーニングテストとして用いられている<sup>2)</sup>。56の項目は心身の各種の症状が表現されている自覚症状項目である。明るさや活動性が表現される4項目すなわち項目番号5の〈いつも体の調子がよい〉、20の〈いつも活動的である〉、35の〈気分が明るい〉、50の〈よく他人に好かれる〉は前記のように本来は妥当性を検討するための項目であるが、明るさや活動性を反映する項目として分析の対象とした。

各項目の番号の左側に○印をつけたものを1点とし、X印をつけたものを0点として、自覚症状項目の合計得点を56点(UPI得点)、明るさ、活動性をあらす項目の合計得点を4点(ライスケール得点)として別々に分析、考察の対象とした。従ってUPIの合計得点が高値を示しているほど精神健康状態が不全であることを表している。一般的に30点以上の得点をとった人を精神的に問題があるのではないかと考えて精密検査の対象とすることが多い<sup>3)</sup>。その反対にライスケールの合計得点が高いほど〈心身の健康さ〉や〈明るさ〉を反映していると考えられる。なお統計処理は愛知医科大学情報処理センターのSASを用いた。

### 3. 結 果

#### 1) 自覚症状項目得点 (UPI 得点)

男女別、学部別の自覚症状項目得点を表2に

表2 UPI得点(自覚症状項目)

学部	男子学生				女子学生				全体			
	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差
文学	70	11.96	9.04	1.08	78	10.83	7.50	0.85	148	11.36	8.25	0.68
教育学	12	10.58	9.47	2.73	53	10.51	8.98	1.23	65	10.52	8.89	1.12
法学	94	11.95	9.03	0.93	71	9.48	7.68	0.91	165	10.88	8.54	0.67
経済	153	8.24	6.90	0.56	69	7.81	7.58	0.91	222	8.10	7.11	0.48
情報文化	68	9.51	7.45	0.90	21	12.00	8.57	1.87	89	10.10	7.75	0.82
理学	217	11.06	9.00	0.61	48	11.35	9.82	1.42	265	11.11	9.14	0.56
医学	71	7.80	7.36	0.87	23	9.91	10.70	2.23	94	8.32	8.29	0.85
工学	812	9.73	8.41	0.30	78	9.32	7.63	0.86	890	9.69	8.34	0.28
農学	103	10.03	8.46	0.83	90	9.62	9.00	0.95	193	9.84	8.69	0.63
全体	1600	9.92	8.40	0.21	531	9.85	8.40	0.36	2131	9.91	8.40	0.18

表3 ライスケール項目得点

学部	男子学生				女子学生				全体			
	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差	回答者	平均点	標準偏差	標準誤差
文学	70	1.10	1.21	0.14	78	1.63	1.30	0.15	148	1.38	1.28	0.11
教育学	12	1.00	1.28	0.37	53	1.85	1.28	0.18	65	1.69	1.31	0.16
法学	94	1.59	1.34	0.14	71	1.63	1.42	0.17	165	1.61	1.37	0.11
経済	153	1.59	1.34	0.11	69	2.12	1.35	0.16	222	1.78	1.36	0.09
情報文化	68	1.59	1.41	0.17	21	1.86	1.56	0.34	89	1.65	1.44	0.15
理学	217	1.52	1.32	0.09	48	1.67	1.49	0.22	265	1.55	1.35	0.08
医学	71	1.90	1.43	0.17	23	1.87	1.42	0.30	94	1.89	1.42	0.15
工学	812	1.46	1.33	0.05	78	1.90	1.41	0.16	890	1.49	1.35	0.05
農学	103	1.32	1.21	0.12	90	1.81	1.27	0.13	193	1.55	1.26	0.09
全体	1600	1.48	1.33	0.03	531	1.81	1.36	0.06	2131	1.56	1.35	0.03

示した。全学生のUPI得点の平均は9.91で、男子は9.92、女子が9.85であり男子がやや高い値を示している。学部別の平均値を見ると、文学部が11.36と最も高く次いで理学部11.11、法学部10.88、教育学部10.52、情報文化部10.10の順でこれら4学部が平均得点より高値を示した。農学部9.84、工学部9.69、医学部8.32、経済学部8.10が平均得点より低値を示した。学部別による男女の違いの特徴を見ると男子では文学部が11.96と最高値で医学部が7.80で最低値を示した。女子では情報文化部12.00が最高値で経済学部が7.81と最低値を示している。

#### 2) ライスケール項目得点

男女別、学部別のライスケール項目得点を表3に示した。全学生のライスケール得点の平均は1.56であり、男子は1.48、女子が1.81で自覚症状項目得点とは逆に女子が高値を示している。学部別に見ると全体では医学部が1.89で最高値を示し、次いで経済学部1.76、教育

表4 UPI 高得点者 (30 点以上)

学部	男子学生			女子学生			全 体		
	回答者	高得点者	%	回答者	高得点者	%	回答者	高得点者	%
文学	70	3	4.3	78	2	2.6	148	5	3.4
教育学	12	0	0	53	3	5.7	65	3	4.6
法学	94	3	3.2	71	2	2.8	165	5	3.0
経済	153	2	1.3	69	2	2.9	222	4	1.8
情報文化	68	1	1.5	21	0	0	89	1	1.1
理学	217	9	4.2	48	4	8.3	265	13	4.9
医学	71	1	1.4	23	3	13.0	94	4	4.3
工学	812	26	3.2	78	1	1.3	890	27	3.0
農学	103	4	3.9	90	4	4.4	193	8	4.2
全体	1600	49	3.1	531	21	4.0	2131	70	3.3

学部 1.69、情報文化部 1.65、法学部 1.61、が平均得点より高値を示し、理学部 1.55、農学部 1.55、工学部 1.49、文学部 1.38 が平均得点より低値であった。学部別による男女の違いの特徴を見ると男子では医学部が 1.90 で最高値で教育学部が 1.00 で最低値を示しているが、女子では経済学部 2.12 が最高値で文学部 1.63 と法学部 1.63 が最低値となっている。

### 3) UPI 高得点者

男女別、学部別の UPI 高得点者 (30 点以上) とその割合を表 4 に示した。全体の高得点者は 70 名 (3.3%) で男子は 49 名 (3.1%)、女子は 21 名 (4.0%) であり、回答者にしめる比率は女子が高かった。学部別にみると全体では理学部が 13 名 (4.9%) で最も比率が高く、次いで教育学部は 3 名 (4.6%)、医学部は 4 名 (4.3%)、農学部は 8 名 (4.2%)、文学部は 5 名 (3.4%) で合計の平均比率より高値を示し、法学部が 5 名 (3.0%)、工学部は 27 名 (3.0%)、経済学部は 4 名 (1.8%)、情報文化部は 1 名 (1.1%) で合計の平均比率より低値を示していた。男女別にみると男子では文学部が最高の比率を示し、教育学部では対象者が少なく高得点者は 0 となっている。一方女子では医学部の比率が最も高く情報文化部では 0 となっている。

### 4) 陽性回答者の上位項目

自覚症状項目、ライスケール項目の合計得点のうち、各項目について陽性 (O 印を付けたも

表5 陽性回答の上位項目と性差

項目	番号	陽性回答率		
		全体 (N=2131)	男子 (N=1600)	女子 (N=531)
[35] 気分があかるい	1	50.9%	47.3%	61.6%
[ 5] いつもからだの調子が良い	2	49.4	48.4	52.5
29 決断力がない	3	41.6	42.8	37.9
18 頰すじや肩がこる	4	35.8	30.7	51.0
58 他人の視線が気になる	5	34.6	35.4	32.0
39 何事にもためらいがちである	6	34.5	37.6	25.4
36 何となく不安である	7	33.9	34.6	32.0
45 とりこし苦労をする	8	31.4	31.6	30.7
51 こだわりすぎる	9	31.0	32.6	26.4
15 気分が波がありすぎる	10	30.2	30.9	27.9
[20] いつも活動的である	11	29.6	28.2	33.9
38 物事に自信を持ってない	12	29.4	29.1	30.3
22 気疲れする	13	27.8	26.1	33.0
48 めまいや立ちくらみがする	14	26.9	24.9	33.2
[50] よく他人に好かれる	15	26.6	24.6	32.8

[ ] ライスケール

の) に回答された人数とその割合の大きい順位にそって陽性率が高いと考えられた 15 位までを表 5 に示した。全体の比率をみると、ライスケール項目の 35 番〈気分があかるい〉が 1 位で 5 番〈いつもからだの調子が良い〉が 2 位、20 番〈いつも活動的である〉が 11 位、50 番〈よく他人に好かれる〉が 15 位であった。29 番〈決断力がない〉、18 番〈頰すじや肩がこる〉、58 番〈他人の視線が気になる〉、39 番〈何事にもためらいがちである〉、36 番〈何となく不安である〉、45 番〈とりこし苦労をする〉、51 番〈こだわりすぎる〉、15 番〈気分が波がありすぎる〉などがいずれも陽性率 30% 以上で 10 位までになっている。男女別にみると、ライスケールの 4 項目ではいずれも男子より女子の陽性率が高く、他の自覚症状項目では 10 位までの項目のうち 18 番〈頰すじや肩がこる〉以外の項目は男子の陽性率が高く反対に 38 番〈物事に自信を持ってない〉、22 番〈気疲れする〉、48 番〈めまいや立ちくらみがする〉は女子の陽性率が高く示された。

## 4. 考 察

名古屋大学学生全体の UPI の平均得点は 9.91、男子が 9.92、女子は 9.85 であり他大学の調査と比較してみると、対象者数は異なっているがその得点は低いように思われる。沢崎達

夫らによる筑波大学新入生<sup>4)</sup>を対象とした調査では男子の平均が12.6、女子の平均は13.4であり、大阪大学における調査報告<sup>5)</sup>では、男子が10.8、女子は10.3でこのいずれの平均値と比較しても名古屋大学学生が男女ともに低値である。調査時期や対象とする学生数も異なり明確に結論づけることは出来ないと思われるが今回の調査結果から判断すると全体的に精神健康状態は良好であると考えられる。学部別にみると、文科系学部では文学部、法学部、教育学部、情報文化部、の順に平均値が高く、経済学部が低値であった。理科系学部では理学部が最も平均値が高く、医学部が低値であった。一方ライスケールの平均得点は、UPI得点とは反対に女子が高値を示していた。学部別にみると文科系学部では経済学部が最も高く、文学部が最も低かった。理科系学部では医学部が最も高値を示し、工学部が低い傾向にあり、ライスケールの平均得点は自覚症状項目の平均得点とおおよそ負の相関をもつ傾向が示された。これらのことから判断すると文科系、理科系による違いよりもむしろ学部の特徴による違いが大きいのではないかと考えられる。すなわち基礎的・理論的色彩の強いと思われる文学部や理学部などの学部の志望者が自覚症状項目の得点が高く、ライスケール得点が相対的に低い傾向があると解釈することも可能である。一方実践的・応用的な性格を持つと思われる医学部や経済学部などの学部の志望者は自覚症状項目の得点が低く、ライスケール得点が高値を示す傾向が見られ、学生の志望学部による心理的特性がある程度表れているのではないかと考えられる。この傾向については大阪大学での調査結果と一致<sup>5)</sup>しているが、今後さらに資料を積み重ねて結論を確認したい。

UPIの合計得点30点以上の高得点者は一般的に精神的に何らかの問題をもっている可能性が高いと判断され精密検査の対象者とされている。今回の調査から70名の高得点者については、入学後の身体の健康とともに精神健康についても配慮する必要があるものと思われる。全体では理学部、教育学部に高得点者の比率が多

いが、文学部、経済学部、情報文化部ではその比率が低く、自覚症状項目の平均得点の比率との相関は低いと考えられる。女子では教育学部で3名(5.7%)、理学部が4名(8.3%)、医学部では3名(13.0%)の学生が高得点者となり女子学生に対する精神健康面への配慮の必要性を示している。

陽性回答の上位項目では、35番〈気分が明るい〉、5番〈いつも体の調子がよい〉が1、2位と最上位で約半数の学生が回答しているが、20番〈いつも活動的である〉が11位、50番〈よく他人に好かれる〉が15位で陽性率が30%以下を示しライスケール項目としては陽性順位が低い。自覚症状項目では29番〈決断力がない〉、59番〈他人の視線が気になる〉、39番〈何事にもためらいがちである〉、36番〈なんとなく不安である〉、45番〈とりこし苦勞をする〉、51番〈こだわりすぎる〉15番〈気分が波がありすぎる〉は何れも陽性率30%以上であった。身体症状のように見える18番の〈頸すじや肩がこる〉も陽性率が35.8%あり、これらはいずれも精神的な症状すなわち感情、気分、情緒や対人関係での障害に関連するものと考えられる。大学入学時の青年期における心理的特性の表れとも考えられるが個々の学生における陽性項目の組合せについても考慮し精神健康状態を観察していくことが必要であると考えられる。自覚症状項目の男女による違いをみると陽性回答率は18番〈頸すじや肩がこる〉を除いた10位まではいずれも男子の回答率が高く反対に12位の項目番号38番〈物事に自信を持っていない〉、13位の22番〈気疲れする〉、14位の48番〈めまいや立ちくらみがする〉は女子の回答率が高い傾向があり男女をとわず心身両面からの健康管理の必要性を学生にも認識させることが大切であると思われる。

## ま と め

1995年度名古屋大学入学生を対象としたUPIの調査結果より次のことがいえる。

①名古屋大学学生全体のUPIの平均得点は低

い傾向を示していた。

②UPIの平均得点とライスケールの平均得点には相反する傾向が認められた。

③文科系学部、理科系学部によるUPI得点、ライスケール得点の差より学部の特徴によりそれらの得点に差が認められた。

④UPI得点が30点以上の学生は70名(3.3%)であった。

最後にこの研究をすすめるにあたり御協力下さいました名古屋大学保健管理室の皆様、多くの資料の統計処理に御協力頂きました愛知医科大学情報処理センターの前田吉則さんに心よりお礼申し上げます。

## 文 献

- 1) 上田一郎監修；メンタルヘルスハンドブック，メンタルヘルスのアセスメント，472-475. 同朋舎，1989.
- 2) 鈴木壯，荒木雅信，奥田愛子；大阪体育大学生の精神健康－UPIの結果より－，大阪体育大学紀要，24: 39-42, 1993.
- 3) 山田和夫；大学生精神衛生チェックリスト(UPI)について，心と社会，6-1, 41-55, 1975.
- 4) 沢崎達夫，松原達哉；大学生の精神健康に関する研究(1)－筑波大学新入生に対するUPIの結果－，筑波大学心理学研究，10: 183-190, 1988.
- 5) 奥田純一郎，黒田英三，白石純三；大阪大学における最近9年間のUPI調査結果，第30回全国大学保健管理研究会報告書，338-342, 1992.

(1995年12月6日受付)

